

行雲流水

No. 3 7 2 令和6年3月11日発行

東日本大震災から13年

校長 寒河江 正人

生徒諸君、**今から13年前の3月11日。**

まだ幼かった諸君は、「どこで、だれと、なにを」していたのでしょうか。

未曾有の大被害をもたらした「**東日本大震災**」から、**今日11日で13年**になります。

当時、私は、東根市教育委員会に勤務しており、尾花沢市内で会議に出席していました。

14時46分。突然、出席者全員の携帯電話の警報音が、けたたましく鳴り響き、
今までに経験したことのない「**大きな揺れ**」に襲われました。

2階の会議室の窓からは、電柱の電線が「むち」のようにビュンビュンと波打ち、
屋根の上に積もった雪は、ものすごい勢いでなだれ落ちました。

すぐさま会議を中止し、東根市役所に戻ろうとしました。

途中のすべての信号が停止し、車の流れも危険な状態にありました。

今でも忘れられないのは、

とてつもない力、真っ黒な水で「うねる津波」に流される家屋の映像、

その夜、東根市役所4階の窓から呆然と眺めた「停電で真っ暗になった風景」、

避難所となった「東根市民体育館」での被災者支援の業務の日々、……。

一方、今年1月1日には、**能登半島地震**が発生して甚大な被害を及ぼし、

今なお、復旧に追われる日々が続いております。

私たちは、平和な日々を置いて、**大災害の悲惨さ**を忘れがちです。

こうした災害は、いつ、どこで、どのような形で起こるのか、予測が困難であります。

だからこそ、これまでの大災害から得られた数々の教訓や対策を無駄にすることなく、

普段の生活から、自分の身の周りにどのようなリスクがあるのかを把握して、

しっかりと備えておく必要があると言えましょう。

それでは、本日の「**東日本大震災・能登半島地震追悼集会**」では、

これらの大災害で、数多くの尊い生命が失われたということに悼みつつ、

全校生徒、全教職員で、手を合わせ、祈ることと致します。